

—北海道—

2020年4月、ウポポイ（民族共生象徴空間）がオープン

1. はじめに

古くからアイヌ民族のコタン（集落）があったことで知られる北海道しらおい白老町。

その白老町ポロト湖のほとりに『ウポポイ（民族共生象徴空間）』が誕生する。

愛称のウポポイは「(おおぜいで) 歌うこと」を意味するアイヌ語に由来し、「国立アイヌ民族博物館」や「国立民族共生公園」、「慰霊施設」が整備され、政府は年間来場者の目標を100万人としている。



国立アイヌ民族博物館

2. 周辺整備

ウポポイは、アイヌ文化の復興・発展はもとより、観光振興や地域振興の牽引役ともなることから、ウポポイの年間来場者目標100万人の達成に向け、北海道では国や地元自治体、関係団体と連携し、ウポポイへのアクセス道路の拡幅やJR白老駅前広場の整備などを進めてきた。



白老駅前広場（完成イメージ）

3. ウポポイ（民族共生象徴空間）について

東北以北で初の国立博物館である国立アイヌ民族博物館は、伝統的アイヌ文化の一面的な展示ではなく、現代に息づく多様なアイヌ文化とそれに関わる人々をさまざまな視点から紹介し、北海道から世界へアイヌ文化を発信し、未来のアイヌ文化の創造を目指している。

また、国立民族共生公園は、アイヌの伝統的生活を体感する「伝統的コタン」、アイヌ古式舞踊公演の場となる「体験交流ホール」、木彫や刺しゅう体験ができる「工房」などからなる体験型のフィールドミュージアムで、豊かな伝統を未来へとつなぐ、多彩な体験交流プログラムが用意されている。



アイヌ古式舞踊（イメージ）

4. おわりに

ウポポイ開設PRアンバサダーとして俳優の宇梶剛士氏、AKB48チーム8北海道代表の坂口渚沙氏を起用し、道内外でのPR活動を行っている。

オープン後は全国から多くの方に、観光等でお越しいただくことを期待しているが、企業研修としての利用のほか、会議や大会後の視察先としても、ぜひ検討していただくようお願いしたい。

（北海道 建設部 建設政策局 建設政策課 上前 孝之）